

**製品名: ヒト IgG1 (2E5) ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe12280**

研究使用のみ

**概要**

|        |  |
|--------|--|
| 説明     | 組換えウサギモノクローナル抗体  |
| 宿主     | うさぎ  |
| 応用     | WB   |
| 反応性    | ヒト、マウス、ラット   |
| 標識     | 非共役  |
| 修飾     | 未修正  |
| アイソタイプ | IgG  |
| クローン性  | モノクローナル  |
| 形態     | 液体   |
| 濃度     | 0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。   |
| 保存     | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。   |
| 輸送     | 氷袋   |
| バッファー  | ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。 |
| 精製     | アフィニティー精製  |

**応用**

|      |                  |
|------|------------------|
| 希釈倍率 | WB 1:1000-1:5000 |
| 分子量  | 36kDa            |

**抗原情報**

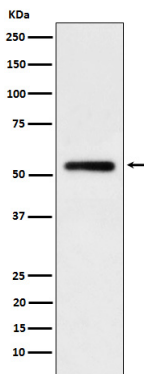
|              |   |
|--------------|---|
| 遺伝子名         | IGHG1   |
| 別名           | Ig gamma 1 chain C region; IGHG1; Immunoglobulin Gm1; |
| 遺伝子 ID       |   |
| SwissProt ID | P01857  |
| 免疫原          | ヒト IgG の組み換えタンパク質                                     |

**背景**

ヒトには4つのIgGサブクラス (IgG1、2、3、4) があり、血清中に存在する量が多い順に命名されています (IgG1が最も豊富)。免疫グロブリン重鎖の定常領域。免疫グロブリンは抗体としても知られ、Bリンパ球によって産生される膜結合型または分泌型の糖タンパク質です。体液性免疫の認識段階では、膜結合型免疫グロブリンは受容体として機能し、特定の抗原に結合すると、Bリンパ球のクローン増殖と免疫グロブリン分泌形質細胞への分化を引き起こします。分泌型免疫グロブリンは体液性免疫のエフェクター段階を媒介し、結合した抗原の排除をもたらします (PubMed:22158414、PubMed:20176268)。抗原結合部位は、1つの重鎖の可変ドメインと、それに関連する軽鎖の可変ドメインによって形成されます。したがって、各免疫グロブリンには、特定の抗原に対して顕著な親和性を示す2つの抗原結合部位があります。可変ドメインは、V-(D)-J再編成と呼ばれるプロセスによって組み立てられ、その後、体細胞超変異を受ける可能性があり、抗原への曝露と選択の後、特定の抗原に対する親和性の成熟が可能になります (PubMed:17576170、PubMed:20176268)。

## 研究分野

## 画像データ



ヒト扁桃腺細胞溶解物中のヒト IgG1 発現のウエスタンブロット分析。